

第3章 近代日本における私立鍼灸学校の実在

1 緒言

2 研究方法

2-1 本論における用語の定義

2-2 鍼灸各種学校の実在について

2-3 研究方法：一次資料をベースにした文献調査

1) 文献検索機関および検索方法

2) 研究対象文献

3 結果

3-1 近代における鍼灸に関する私立学校の実在

1) 一次資料の結果

2) 一次資料に基づいた学術的資料の結果

3) 近代の鍼灸雑誌から

3-2 近代の私立鍼灸学校数および実態

1) 私立鍼灸学校数の推移

2) 実在が特定された私立鍼灸学校

3) 実在が特定された私立鍼灸学校の実態

4) その地域分布

5) 文部省第77年報(1949年)について

1 緒言

現行の「あん摩マツサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律」（以下あはき法）は、日本国憲法下1947(昭和22)年法律第217号の「あん摩、はり、きゆう、柔道整復等営業法」の改正法であり、その雛形は1911(明治44)年、内務省令第11号として鍼灸を全国統一的に管理するために初めて制定された「鍼術灸術営業取締規則」（以下取締規則）に見ることができる¹⁾。

当時の内務省技師の野田は、取締規則制定の大きな目的は、それまで各地方に管轄を一任していた鍼灸術を全国統一の免許鑑札にすることだが、出来るならば免許鑑札試験を無試験にするような、相当な環境が整った学校教育下で鍼灸術を教育することが望ましく、そのためにも学校教育環境を整備・充実させることが急務であるとともに、鍼灸の機序に関して（西洋）医学的に研究することが重要であると発言していた²⁾。

盲学校の鍼灸教育に関しては、福祉的救済の観点から近代後期にはすでに公教育として環境整備が充実していたようだが、当時、主に晴眼者を対象にした民間私立の鍼灸教育に関する学校の記録や記述は乏しくその実情は不明な点が多い。その概要については、拙論で報告したが³⁾、当時の取締規則で国の施策的な方向性が示されていたと考えられる近代の鍼灸教育の成り立ちについては、さらなる検証が必要であると考え、当時の主に私立鍼灸学校の実在と当時の教育内容の事例から考察（第4章）を試みた。

2 研究方法

2-1 本論における用語の定義

取締規則：1911(明治44)年の「鍼術灸術営業取締規則」

指定標準：取締規則の附属法令で、鍼術灸術免許鑑札試験を無試験指定校とするための諸条件を示した「按摩術鍼術又ハ灸術学校若クハ同講習所ノ指定標準ノ件」

指定学校：指定標準で地方長官に免許鑑札試験を無試験に指定された学校（講習所）。

私立学校：教育令(1879年明治12年)に基づく学校および、その後の私立学校令(1899年明治32年)に基づき地方長官や監督官庁から許可された各種学校。

2-2 私立鍼灸学校の実在について

取締規則および指定標準における無試験指定学校（講習所）は地方長官（知事）から指定を受ける。盲学校の多くは規則制定時に既に無試験指定条件を整えていたという。晴眼者の学校に関する先行文献（当時の鍼灸専門雑誌）研究では、1940(昭和15)年『東洋鍼灸雑誌』で指定学校が「5校」、1941(昭和16)年『東邦医学』では「6校」あったという記述はあるが⁴⁾ ⁵⁾、近代における鍼灸教育機関の指定学校に関する公的な一次資料や学術的な報告は現段階では見いだすことはできなかった。現在と同様に、盲学校以外の鍼灸教育機関がすべて民間私学だったことやそれらを束ねるような組織がなかったことなどが一要因であると考えられる。

しかし、私立学校として鍼灸教育を行っていた教育機関については、私立学校令(1899年明治32年)によれば⁶⁾、その第一条で当時の「地方長官」の監督下にありその実状は文部省の一次資料などから窺い知ることが出来ることがわかった。

戦後のあはき法の成立から現在に至るまでの日本の鍼灸教育は専修学校および現在の専門学校教育に担う部分が多いが、韓は日本の専修学校は従来の各種学校を母体にして生まれた学校制度であると述べている⁷⁾。よって、本研究では、近代における鍼灸教育の成立を検証するために、これまでほとんど分かっていない当時の鍼灸に関する私立鍼灸各種学校の実在を特定して、その実態や実情から考察を試みることにした。

2-3 研究方法：一次資料をベースにした文献調査

1) 文献検索機関および検索方法

A：国立国会図書館；一般資料文献検索システム NDL-OPAC

B：千葉大学附属図書館；蔵書検索システム OPAC

C：筑波技術大学図書館；開架閲覧

D：東京都公文書館；文献検索システム及び開架閲覧

E：大阪府公文書館；所蔵資料検索システム及び開架閲覧

F：広島県立文書館；目録および口頭面接による検索

G：広島市公文書館；口頭面接による検索および開架閲覧

2) 研究対象文献

(1) 一次資料

文部省関係一次資料

『文部省第40年報』(1912 明治45年)～

『文部省第78年報』(1950 昭和25年); B蔵書

『各種学校の沿革と現状』文部省調査局調査課編

(1953 昭和28年)初版. 東京. 文部省調査局調査課.

1953:1-52.; A蔵書

公文書館一次資料

東京都公文書館資料; D蔵書

『広島県統計書』; F蔵書

『大阪府教育百年史』; E蔵書

厚生労働省関係一次資料

『医制八十年史』(1955) 『医制百年史』(1976)

『厚生省五十年史』(1988)

(2) 一次資料に基づいた学術的資料

『現代日本の専門学校—高等職業教育の意義と課題』韓民著(1996 年平成8年); B蔵書

「各種学校の歴史①～各種学校の歴史⑤」小金井義著(『各種学校教育』全国各種学校
総連合会機関誌、第1号1964(昭和39)年11月、1964:51-60～第6号1966(昭和41)年
4月、1966:95-109.) ; A蔵書

(3) 鍼灸教育に関する私立学校として考察出来る資料

『日本鍼灸雑誌』; A蔵書 明治三十五年創刊

～昭和19年まで、通刊482号 大日本鍼灸医学会発行

『東京鍼灸雑誌 三交』; C蔵書

明治四十三年創刊～大正5年まで 通刊60号

現存する鍼灸専門学校の学校要覧や案内要覧

; 各学校より入手

『医道の日本』: 巻頭特集「歴史に残る斯界の人々」

其の一 柳谷素霊(710号第62巻1号2003年1月)～

其の四十八 小川晴道

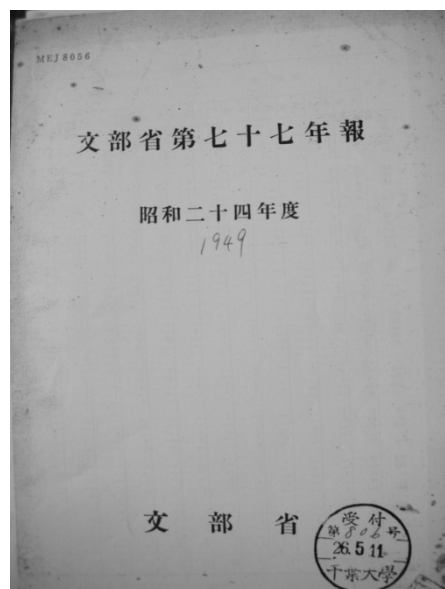
(759号第65巻13号2006年12月); 個人蔵書

『法人設立10周年記念誌—法人設立10年の歩み—』

武田秀孝編 東洋療法学校協会発行 1995年初版; 個人蔵書

『昭和鍼灸の歳月』上地栄著 1985初版 續文堂発行; 個人蔵書

『六十年の歩み』千葉県立千葉盲学校編 1972年初版; 個人蔵書



3 結果

3-1 近代における鍼灸（一部あん摩も含む）に関する私立学校の実在について

1) 一次資料の結果

(1) 『各種学校の沿革と現状』；A 蔵書から

1941(昭和16)年以降戦争の進展に伴い当局が各種学校の監督強化を図るなかで、1942(昭和17)年、全国の約1600の認可学校について調査をおこなった。その際、各種学校が特殊な職業教育機関である性格から47職種に分類(自動車、語学・・・助産婦、看護婦等)され、その32番目に「鍼灸按摩に関するもの」として20校が計上された。しかし、学校数が計上されているだけで、これらの学校に関する解説や設置都道府県、学科・生徒数などといったデータは見いだせなかった。

(2) 『文部省年報』；B 蔵書から

明治末年から昭和24年度文部省第77年報までの、統計資料の各種学校のデータは学校種の区分は大枠だけであり、鍼灸に関する各種学校を特定することは不可能である。戦後、1949年昭和24年度文部省第77年報で各種学校の区分が細分化され「鍼灸」が初めて登場した。その数は11校であり、翌年の第78年報では9校であった。

(3) 東京都公文書館資料；D 蔵書から

文献検索システムによって、検索値を「鍼灸 AND 明治1～昭和20年」検索した結果28件が表示された。このうち認可され鍼灸学校の実在を特定できたのは以下であった。

① 「私立日本鍼灸按摩学校」大正元年八月三日付(1912)

位置：牛込区市ヶ谷谷町

設立者：平民 鈴木惣之助(文久三年四月一日生)

書類：出願書、学則(第1章～第5章)、教育課程、入学願書、校舎平面図、鈴木履歴書他

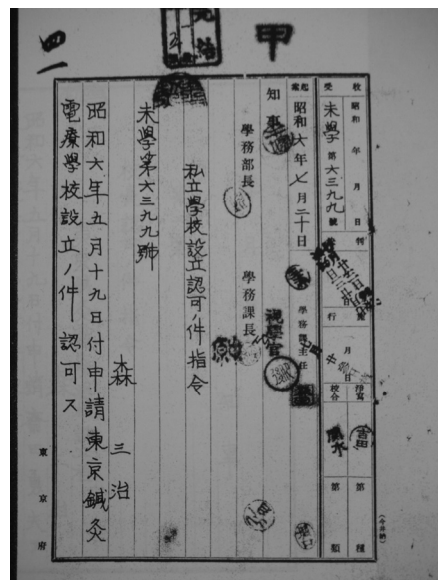
② 「東京鍼灸電療学校」(写真右)

昭和六年七月二十日付(1931)

位置：牛込区市ヶ谷台町

設立者：森三治(明治三十一年二月三日生)

書類：指令、校長(斉田勇夫)認可の件、設立認可の件(目的、位置、校舎、学費定員、修業年限、経営維持、校長)、森三治の身分調査の件、認可申請書、学則、入学願書、卒業証書、位置図、校舎平面図、経営維持方法、職員表、森の履歴書、斉藤の履歴書



③ 「東京鍼灸医学校」昭和六年四月十一日付(1931)

位置：本所区東両国

設立者：猪又●(判明不明文字) 蔵(明治三十一年九月十五日生)

書類：指令、校長(江口勝四郎)認可の件、設立認可の件(目的、設立者、位置、校舎、設備、)設立趣意書、学則(第一章総則、第二章学年学期休日、第三章教育課程、第四章入学及退学、第五章試験、第六章学費、第七章賞罰)創立費維持費明細、位置校舎平面図、経営維持方法、職員表、猪又及び江口履歴書他

④「東京高等鍼灸医学校」(写真右)

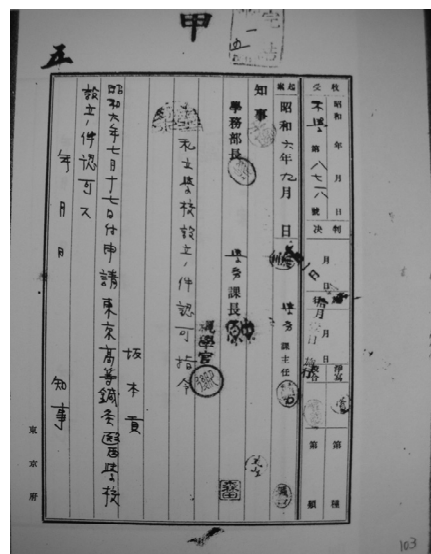
昭和六年九月付(1931)

位置：四谷区塩町

設立者：坂本貢(明治三十一年九月十五日生)

書類：指令、校長(坂本本人)認可の件、設立認可の件

(目的、設立者、位置、校舎、学費、定員修業年限他)、身分調査の件、認可申請書、創立費維持費明細、学則(第一章総則、第二章学年学期休日、第三章教育課程、第四章入学及退学、第五章試験及卒業、第六章学費、第七章賞罰)入学願書、卒業証書、位置図、校舎平面図、職員表、坂本履歴書



(4)大阪府公文書館資料；E蔵書から

今回の調査では、鍼灸私立学校の申請や認可に関する公文書を見いだすことは出来なかった。当公文書館「所蔵資料検索システム」に検索値(鍼灸 AND 学校、鍼灸 AND 申請または認定、年代は明治1～昭和20年)や検索方法などに課題が残った。

(5)『広島県統計書』；F蔵書から

広島県や広島市によれば、「申請・認可」などに関する公文書は「原爆」で焼き尽くされ公文書的に見いだすのは不可能であろうとの見解であった。しかし、広島県発行(1924大正13年から1938昭和13年)「学事」からは以下の各種学校の実在が特定できた。

①私立広島鍼灸学校(1924大正13年設立)1928昭和3年、表53各種学校に初掲載される。(修業年限4年1学級、教員7生徒43)

②私立東洋鍼灸学校(1929昭和4年設立)1932昭和7年、表70各種学校に初掲載される。(修業年限4年1学級、教員3生徒20)

広島文書館蔵書で最後の広島県統計書の「学事」、表72各種学校には私立広島鍼灸学校(1924大正13年設立)は(修業年限4年3学級、教員5生徒28)、私立東洋鍼灸学校(1929昭和4年設立)は(修業年限4年1学級、教員3生徒30)となる。広島市公文書館所蔵の『新修広島市史・第四巻文化風俗編』の近代、第五節実業学校・各種学校の変遷には、「明治初年からさうとう設けられたが、長続きするものがなかった。明治から大正にかけてそのような学校数はいちじるしく多くなり、その設立・廃止もめまぐるしかった。」とあり、医療関係に広島鍼灸学校(大正13年設置)と東洋鍼灸学校(昭和4年設置)が掲げている。しかし、東洋は昭和14年には廃止されているとあった。1949年の表には広島に一校存在しているので、広島鍼灸が存在していた可能性がある。

2)一次資料に基づいた学術的資料の結果

(1)小金井の「各種学校の歴史」A蔵書から

『各種学校教育』第6号1966年昭和41年4月「各種学校の歴史⑤」—明治後期における各種学校(3)の二—専門教育の発展—(1)医学、歯学、薬学関係等の諸学校にはじめて、「その他の医療分野の各種学校については明治末年に至ってようやく組織的教育機関の設立をみるに至った」という記述があり、以下6校について記載があった。

1908(明治 41)年：盲人技術学校 (東京築地、本願寺別院内)

1911(明治 44)年：大阪盲人学校 (大阪)

：関西鍼灸学院 (大阪)

：大阪繙深鍼灸学校 (大阪)

1912(明治 45)年：鹿児島鍼灸学校 (鹿児島)

：マッサージ講義園 (大阪)

3) 近代の鍼灸雑誌から

『日本鍼灸雑誌』の記事から；A 蔵書

①熊本県鍼灸学校 (熊本県)：第 248 号 1924(大正 13)年；「熊本県鍼灸学校設立される」

②福井鍼灸学校 (福井県)：第 249 号 1925(大正 14)年；「鍼灸学校創立して」

③小倉鍼灸学校 (福岡県)：第 324 号 1931(昭和 6)年；「公認小倉鍼灸学校開校披露式」

④明治鍼灸学校 (大阪府)：第 324 号 1931(昭和 6)年；「純専門の鍼灸学校生る」

⑤鶴嶺 (つるがね) 鍼灸学校 (鹿児島)：第 349 号 1933(昭和 8)年

；「純専門の鍼灸医養成校公認鶴嶺鍼灸学校生る」

⑥愛知鍼灸学校 (愛知県)：第 419 号 1939(昭和 14)年；「名古屋の於ける鍼灸学生雄弁大会」

⑦名古屋鍼灸学校 (愛知県)：第 419 号 1939(昭和 14)年；「名古屋の於ける鍼灸学生雄弁大会」

⑧九州鍼灸学校 (長崎県)：第 420 号 1939(昭和 14)年；「九州鍼灸学校指定校に昇格」

あくまで雑誌記事なので、信頼性に課題は残る。とくに⑥⑦は関連記事なのでこの記事からでは創立時期を特定することは出来ない。

3-2 近代の私立鍼灸学校数および実態

1) 私立鍼灸学校数の推移

表 1 近代から戦後にかけての私立鍼灸学校の実在数

	1912	1942	1949	1950
私立鍼灸学校数	6	20	11	9

上記の調査結果から、1912(明治末)年から 1950(昭和 25)年までの私立鍼灸学校の実在数を整理する。大正・戦前にかけて学校数は確実に増加していたが、第二次世界大戦の影響で戦後になり学校数は減少する。この数値にはあん摩の学校や民間で視覚障害者を教育していた学校もふくまれている。

2) 実在が特定された近代期の主に晴眼者を対象にしていた

鍼灸に関する「私立鍼灸学校」について

1911(明治44)年の「鍼術灸術営業取締規則」の制定に呼応するように設置が認可され始め、大正元年までに3校が設置された。大正年間では小康状態になったが、1924(大正13)年から1936(昭和11)年までの13年間に14校の設置認可が確認できた。西日本の学校が先行し1931(昭和6)年には東京で3校が集中して認可されていた。独自の教科用教科書を作成していた学校が5校あり、そのうち4校の教科書は創立者の著作であった。

表2 本研究で実在の判明した近代期の私立鍼灸学校

	学校名	認可年	所在	創立者	文献名	教科書	備考
1	鹿児島鍼灸学校	1910	鹿児島	久木田伊助	学校案内・記念誌		現存
2	関西鍼灸学院	1911	大阪	山本新梧	各種学校の歴史・斯界の人々	○	1944年閉校
3	大阪繻深鍼灸学校	1911	大阪	繻田豊次郎	各種学校の歴史		設置者が視覚障害者
4	日本鍼灸按学校	1912	東京	鈴木惣之助	東京都公文書		
5	広島鍼灸学校	1924	広島	不明	広島県統計書		詳細不明
6	熊本県鍼灸学校	1924	熊本	大塚貞喜	日本鍼灸雑誌		
7	福井鍼灸学校	1925	福井	坪内成元?	日本鍼灸雑誌		坪内は校長
8	東洋鍼灸学校	1929	広島	不明	広島県統計書		詳細不明
9	明治鍼灸学校	1930	大阪	山崎良齋	学校案内	○	1951年閉校、1959年再開校
10	東京鍼灸電療学校	1931	東京	森三治	東京都公文書		
11	東京高等鍼灸医学校	1931	東京	坂本貢	東京都公文書	○	現存
12	東京鍼灸医学校	1931	東京	猪又敬造	東京都公文書 昭和鍼灸の歳月	○	柳谷素霊が教頭を務める
13	小倉鍼灸学校	1931	福岡	小熊坂栄吉	日本鍼灸雑誌		小熊坂は小倉鍼灸師会長
14	名古屋鍼灸学校	1932	愛知	兵藤晋平	日本鍼灸雑誌・記念誌		現存
15	愛知鍼灸学校	不明	愛知	村井智玄	日本鍼灸雑誌・国立公文書館		詳細不明
16	鶴嶺鍼灸学校	1933	鹿児島	有留治市	日本鍼灸雑誌		有留治市は校長
17	九州鍼灸学校	1936	長崎	宇和川義瑞	日本鍼灸雑誌	○	閉校時期不明

3) 実在が特定された私立鍼灸学校 17 校の実態について

研究対象文献より 17 校の概要について以下に記す。

①鹿児島鍼灸学校

久木田伊助 (1874 年鹿児島出身) により創立された本校 (現鹿児島鍼灸専門学校) は、小金井の報告に見られる 1912(明治 45)年までに設置された 6 各種学校のうち、主に晴眼者の鍼灸教育のための学校である。このうち現代の鍼灸教育機関としては、最も古いといえる。

薩摩藩の典医肥後盛昌に師事し鍼灸学を修得した久木田は 1907(明治 40)年、鹿児島を訪問した当時の皇太子 (後の大正天皇) を鍼治療したという記録がある (『医道の日本』「歴史に残る斯界の人々 其の十九 久木田伊助」より)。

②関西鍼灸学院

『日本鍼灸雑誌』創刊者で後には『東洋鍼灸雑誌』に鞍替えする山本新悟により創立され、1944(昭和 19)年に戦禍により閉鎖された学校である。山本は『日本鍼灸学教科書』なども発行する。戦後の鍼灸界を代表する小川晴道や木下晴都などを輩出した (『医道の日本』「歴史に残る斯界の人々 其の五 山本新悟」より)。

③大阪繙深鍼灸学校

大阪繙深鍼灸学校は繙田豊次郎により創立され、本人はその著書の自序で「予壮年ニシテ眼疾ニ罹リ終ニ失明盲トナル」とり視覚障害者であるようだが、視覚障害者を教育対象としていたかは本研究からは不明である (『鍼灸学新論』. 初版. 大阪. 繙田豊次郎. 1907:1-2 より)。

なお『日本鍼灸雑誌』第 315 号昭和 5 年 P25 では、大阪繙深鍼灸学校創立第二十週 (ママ) 年記念祝賀会が六月三日に中之島公会堂で盛大に開催された様子が報告されている。

④日本鍼灸按学校

鈴木惣之助により、1912(大正元)年に創立認可された学校である。翌年 3 月 5 日の開校式の様子が『東京鍼灸雑誌 三交』23 号 (1913, 3) に報じられている。

⑤広島鍼灸学校

既述

⑥熊本県鍼灸学校

講師陣に熊本医大福医長中村眞一氏、同校教授竹屋博士及び甲斐静也氏、校長に大塚氏などを迎え本科二カ年別科一カ年の修業の学校として 1924 年に設立されたと報じられていた (『日本鍼灸雑誌』第 248 号 1924(大正 13)年より)。

⑦福井鍼灸学校

坪内によれば、開校時の入学希望者の学歴が、尋小卒一名高小卒七名 中学中途二名中学卒三名 女学中途三名女学卒二名 師範中途五名高師中途二名 看護卒一名看護長一名看護婦三名で社会から尊敬信頼を得ていると報告している。さらに「本校職員は大いに熱心に且つ勇気を出して教鞭を取って居る又教授時間外には外来患者を実地にして治療して居るが誠に成績が良ろしいので一般社会の斯界を見る目が向上した事と是から時代に適はしき立派な鍼灸医師が続出する事を悦び四方諸彦の御盡力の偉大なるを感謝するものである。」とも述べている (『日本鍼灸雑誌』第 249 号 1925(大正 14)年より)。

⑧東洋鍼灸学校

既述

⑨明治鍼灸学校

現在の明治東洋医学院専門学校及び明治国際医療大学(旧明治鍼灸大学)の前身である。鍼灸の歴史に残る近代の鍼灸師山崎良斎(1890 明治 23 年高知県出身)が創立した。1940(昭和 15)年、山崎は逝去し、戦争の影響で廃校になるが、山崎の遺志を継いで戦後再び開校し、日本で初めて鍼灸大学(明治鍼灸短期大学)の設立に至る(『日本鍼灸雑誌』第 324 号 1931(昭和 6)年および『医道の日本』「歴史に残る斯界の人々 其の三 山崎良斎」より)。

⑩東京鍼灸電療学校

これまで、存在が知られていない学校である。設立申請関係文書によれば、目的は鍼術灸術マッサージ術者と電気治療術者の養成であり、鍼灸マッサージ術科と電気治療術科を標榜している。当時、電氣的な治療のニーズがあったことが伺える(D蔵書より)。

⑪東京高等鍼灸医学校

現在の学校法人呉竹学園東京医療専門学校の創立者の坂本貢は、東京市役所の吏員を勤める傍ら 1926(大正 15)年東洋温灸医学院を開設し治療や指導に当たっていた。当時の免許鑑札試験受験対策事業として業績を伸ばし、昭和 3 年新たに「東京高等鍼灸医学校」を設立、私立学校令による認可を受けるために東京府、警視庁の担当者との折衝の結果、1931(昭和 6)年に正式認可された。その後、戦時色が強まるまでは生徒数も順調にのび校舎の増改築などをしたという記録もある(D蔵書および『医道の日本』「歴史に残る斯界の人々 其の三十一 坂本貢」より)。

⑫東京鍼灸医学校

創立者の猪又敬造は東京本所で越後のもぐさを扱う商売をしていた。1931(昭和 6)年、私立学校令に基づく東京府認可を受け、教頭には柳谷素霊が就任した。出身者には、岡部素道、井上恵理、赤羽幸兵衛、戸部宗七郎といった戦後、日本鍼灸を支える者がいる(『昭和鍼灸の歳月』上地栄著および『医道の日本』「歴史に残る斯界の人々 其の一 柳谷素霊」より)。

⑬小倉鍼灸学校

1932(昭和 7)年 3 月 3 日付けで福岡県知事から認可された同校は、福岡県鍼灸副会長、小倉鍼灸会長、規則による福岡県第一回鍼灸試験委員といった重責を歴任する小熊坂栄吉により創立された。同年 3 月 13 日に市内城内記念館で開校披露式が挙行され、小倉市長代理、小倉署長、県市会議員、下関盲聾学校長といった来賓他官民百五十余名が参列したと報告されている(『日本鍼灸雑誌』第 324 号 1931(昭和 6)年より)。

⑭名古屋鍼灸学校

本校は現在も同名で存続している。現代では、ほとんどの鍼灸学校は「専門学校」(専門課程専修学校)という形態で教育体制を整備しているが、本校は現在も「各種学校」という形態で存続している珍しい学校である。

⑮愛知鍼灸学校

日本鍼灸雑誌の関連記事から私立各種学校(指定学校)として実在は確認でき、国立公文書館公文書によると、設立者は村井智玄であり、村井が当時の愛知県知事に教員採用の申請を行っていることはわかった。現時点ではそのほかの詳細は不明である。

⑯鶴嶺鍼灸学校

この学校もこれまでほとんど実在が知られていない。1928年、鹿児島夜間鍼灸学院として創設され、その昼間部を設置、1933(昭和8)年3月10日私立学校令に基づき鹿児島県より認可された。校長有留治市は家伝名灸家の七代目で、患者が毎日門前市をなすほどの技術であったとされる。副校長の前園雄造は⑰九州鍼灸学校創立者宇和川義瑞の教え子である。講師陣には前熊本医大教授家弓茂吉博士などがあげられている(『日本鍼灸雑誌』第349号1933(昭和8)年より)。

⑰九州鍼灸学校

創立者の宇和川義瑞 1876(明治9)年愛媛県生れで、高知市の医師下で医術を研究してその後鍼灸術免許をとった。大正年代には島原半島付け根の「高来群愛野村」を中心に3分院の治療院を展開し、当時の鍼灸雑誌では「第一人者」とその功績を賞賛する記事もあった。1926(大正15)年には、「鉄筋コンクリート三階建総坪数六百三坪工費四万余円」という入院設備も備えた鍼灸治療院を建設し、「十月三十一日天長節に落成式挙行三日間の宴会にて三百余名来賓」という大々的な開院式も行っているほどであった(『東京鍼灸雑誌三交』第50号1915(大正3)年および『日本鍼灸雑誌』第196号,第244号,第245号他より)。

4) 実在が特定された17校の地域分布について

近代に「私立鍼灸学校」として特定出来た学校について表3のようにまとめた。東京の4校以外はすべて西日本にあり西高東低が著しい。さらに、5/17校が九州に実在していたことも興味深い事実である(表3,図1,図2)。大正年間や昭和初期にかけて、広島や長崎は東京大阪といった大都市に次ぐ人口を有していた。鍼灸のニーズは人口数に影響され、そのニーズが学校経営に影響していたことが推測される事実であると考えられる。

表3

	東京	愛知	福井	大阪	広島	福岡	長崎	熊本	鹿児島	合計
学校数	4	2	1	3	2	1	1	1	2	17

図 1

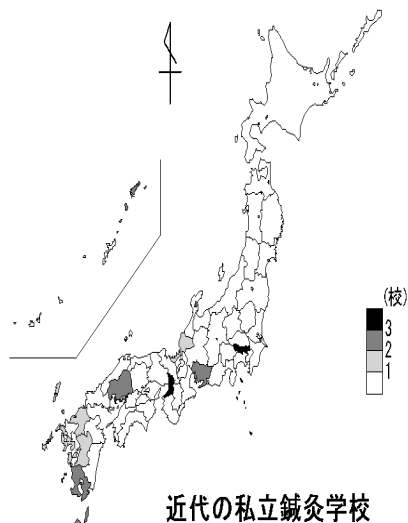
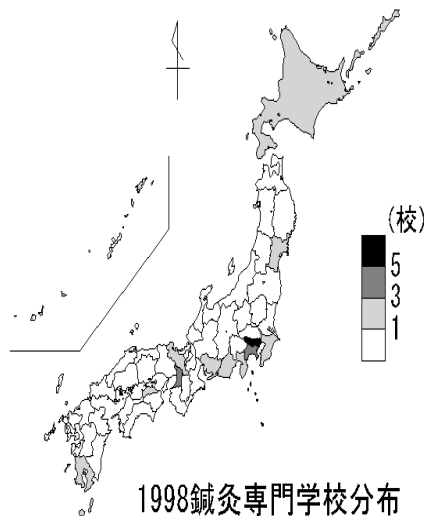


図 2



戦後に比べると近代期の私立鍼灸学校は西日本に偏在していたことがよくわかる。

5) 1949(昭和 24)年度 文部省第 77 年報の「鍼灸 11 校」の設置都道府県と生徒数

1949 (昭和 24) 年度文部省第 77 年報で各種学校の区分が細分化され「鍼灸」が初めて登場した。その 11 校について以下表 4 に示す。

表 4 1949(昭和 24)年度の鍼灸に関する各種学校 11 校の設置都道府県と生徒数

	宮 城	千 葉	東 京	愛 知	京 都	大 阪	広 島	長 崎	鹿 児 島	合 計
学校数	1	1	1	2	1	1	1	1	2	11
生徒数	10	?	180	41	30	7	?	72	39	379

注：？は文部省年報の表に数値が計上されていないため。

宮城は 1947(昭和 22)年宮城県から「東北高等鍼灸学校」の設立許可を受けた現在の赤門鍼灸柔整専門学校（※国立公文書館文書および http://www.akamon.ac.jp/school_info.html#a000006 参照）、千葉は私立盲学校であった成田清聚学園（その後廃校）、東京はその規模からも東京高等鍼灸医学校（現東京医療専門学校）、愛知の 2 校は名古屋鍼灸学校（現存同名）と愛知鍼灸学校（廃校）、京都の实在は不明、大阪は戦後再開校した明治鍼灸学校（現明治東洋医学院専門学校）、広島は広島鍼灸学校（廃校）、長崎は九州鍼灸学校（廃校）、鹿児島は九州鍼灸学校（廃校）と鶴嶺鍼灸学校（廃校）であることが推測される。戦禍で約半数の学校がなくなり、かろうじて生き残った学校の約半数も廃校に追い込まれてしまった。

※国立公文書館文書より

宮城県 財団法人 東北高等鍼灸整按学校設立認可

昭和 24 年 4 月 18 日 設立者 国分壮

履歴：昭和 13 年財団法人厚生省認定九州鍼灸学校（前長崎県指定九州鍼灸学校）

研究科卒業

引用

- 1) 東洋療法学校協会編. 関係法規. 第 6 版. 東京. 医歯薬出版株式会社. 2003:2-3.
- 2) 野田忠廣. 規則発布に付て. 三交第 10 号. 1912:2-9.
(森秀太郎監修 東洋医学雑誌復刻叢書 9 オリエント出版社 2005:10-17.)
- 3) 箕輪政博、形井秀一. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師学校養成施設の変遷と現状—特にその創立期に着目して—. 全日鍼灸会誌. 2006;56(4):644-55.
- 4) 山本新梧. 指定学校の重大使命. 東洋鍼灸雑誌. 1940;268 号(昭和 15 年 5 月):1.
- 5) 保寶弥一郎. 私立鍼灸学校の現状と其改善策. 東邦医学. 1941;第八卷第九号(昭和 16 年 8 月):25-7.
- 6) 文部科学省ホームページ. 学制百年史 資料編 [一 教育法規等 (一) 私立学校令]
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpbz198102/hpbz198102_2_017.html より
(一) 私立学校令 (一) 総則 私立学校令(明治三十二年八月三日勅令第三百五十九号)
第一条 私立学校ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外地方長官ノ監督ニ属ス
第二条 私立学校ヲ設立セントスル者ハ監督官庁ノ認可ヲ受クヘシ私立学校ノ廃止及設立者ノ変更ハ監督官庁ニ開申スヘシ
- 7) 韓民. 現代日本の専門学校—高等職業教育の意義と課題. 初版. 東京. 玉川大学出版部. 1996:11-48.